

平成 15 年 3 月 31 日

内閣府拉致被害者・家族支援室

小熊 博 室長様

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博

特定失踪者に関する情報について

平素、支援室におかれましては拉致被害者救出のための献身的な活動を進めておられますこと、心より敬意を表します。

さて、このたび元亡命工作員安明進氏が来日し、当調査会では安氏の協力のもと、特定失踪者についての情報確認作業を行いました。

その内容を 3 月 30 日に開催されました救う会全国協議会の幹事会で当会真鍋貞樹専務理事が報告し、幹事会では古川了子さん、加藤久美子さんを救う会認定の拉致被害者リストに入れるべく、お 2 人のご家族、家族会、調査会などと調整作業にはいることを決定しております。

以下は幹事会で報告した内容に、さらに 31 日に安氏から聴取した内容を加えたものです。本日の聴取で安氏が金正日政治軍事大学でみた男性のうちの一人が田中実さんである可能性が高まっています。当会では救う会とも連携しながらさらに安氏からの聴取を行う予定です。

私共はソウル及び東京でこれまでたびたび安氏から拉致問題について聴取しており、その証言について信頼できるものと認識しております。支援室におかれましても関係各官庁等と連携の上、積極的な対応を賜りますようお願い申し上げます。

記

古川了子さん（昭和 30-1955 年生・昭和 481973 年 7 月 7 日失踪）

1991 年の 9 月ごろ、時間は 5～6 時頃だったと記憶している。当時自分は 915 病院に入院していた。915 病院とは朝鮮労働党作戦部に所属する病院で、工作員や被拉致者などの治療をするだけでなく、麻薬や毒薬の製造や改良も行うところである。敷地の中には 100～150 の施設があった。場所は平壤北方、順安空港から平壤市内に向かう道から 1 キロも離れていない。

安氏はこの日、退屈なので練習用の通信器材を持ってきて練習しようと、約 6 キロ離れた学校（金正日政治軍事大学）まで歩いて行った。途中病院の道を通っていくと見つかる可能性があると思い、道のないところを通って行った。そこから通常の道を渡って政治軍事大学の方に行こうとしたとき、木の陰にいた古川さんと思われる女性に見られた。あとで通報されるといけないと思い、通報しないように頼もうと思って後ろをつけて行って声をかけた。向き合っていたのは 5 分位だったと記憶している。自分の言葉にうなずいたりしていたが、朝鮮語を理解していないようにも見えた。自分が姿を記憶していたのは金正日政治軍事大学にいたのがほとんど男性で、女性に対しては関心が強かったから。

その女性は入院患者が着る服を着ていた。病院の夕食時間は 7～8 時だから、おそらく中央病棟に治療に来た帰りではないかと思う。食堂は共通だが食べる場所は厳格に区別されており、お互いが顔を合わせることはない。日本人のいた病棟と自分のいた病棟の距離は 200～300 メートルで、建物は見えたが人は見えなかった。道は大きく迂回して通っていた。後で看護婦に聞いたら、彼女が日本人で、胃潰瘍で入院していると言っていた。日本人化のための教員であれば、学生に普段接しているから対応にはなれているはずだが、そうは見えなかった。北朝鮮では 60 年代から 70 年代にかけて、「日本革命」をめざしたことがあり、「日本人村」を作ったことがあった。そこにいたのかも知れない。

写真よりも、お姉さんと直接会って確信を持った。あいさつしたときのお姉さんの笑顔と、通報しないように頼んだとき古川さんと思われる女性が見せた笑顔がそっくりだった。

加藤久美子さん（昭和 23-1948 年生・昭和 45-1970 年 8 月 8 日失踪）

1988 年、89 年、90 年、金正日政治軍事大学内で横田めぐみさんと一緒にいた女性だと確信する。金正日政治軍事大学の講堂付近、バス乗り場などで見た。横田めぐみさんと一緒に教官用通路を通って食堂に向かって歩いているところも見た。

当時年齢が 30 代中盤以後に見え、パーマをかけた髪で特別な印象の着衣はなかったものと記憶する。

それより正確に言えば当時彼女達を見たとき写真の女性よりは横田めぐみさんにより関心があり、彼女だけを見ていたので写真の女性については特別な関心はなかった。しかし横田めぐみさんに関心を持って眺めるとき十余回も横田めぐみさんと並んで座って話をしていたのが記憶に残っている。当時彼女は 158 センチ以下の身長だったと記憶している。彼女の職業はもちろん横田めぐみさんをはじめとする大学内の他の日本人と同様で対日工作員に日本語を教える日本語教官だった。

田中実さん（昭和 24-1949 年生・昭和 53-1978 年 6 月 6 日ウィーンに向かって出国し

行方不明)

(田中さんについては本日<注・31日>確認)

金正日政治軍事大学にいた日本人男性の一人。当時43～44歳だが髪の毛は真っ白だった。若干頭髪が後退しており、それをカバーするような髪形になっていた。写真と比べると白髪なのと若干頬がこけているがこの顔だった。身長は165～167センチより低かったと思う。このことについては以前テレビの取材を受けたときに伝えたが、相手は「調べてみる」と言ったきりでその後の対応はなかった。

● 金正日政治軍事大学で安氏が見た日本人は男性6名、女性5名の合計11名(古川さんは915病院での目撃なので含まれない)。その内訳は次の通り。

<男性>

蓮池薫・市川修一・田中実と思われる男性・(似顔絵が発表されている北海道の男性)・(身長167～8センチの男性)・(不明)

<女性>

横田めぐみ・増元るみ子・加藤久美子(一番小柄だった)・(身長156～8センチ程度の女性)・(身長156～8センチ程度の女性)

● この他安氏が似た人物を北朝鮮で見た人に松本賢一さん(昭和11-1936年6月24日生・昭和45-1970年6月失踪)と山田建治さん(昭和24-1949年1月22日生・昭和54-1979年12月18日失踪)がいるが、松本賢一さんの場合は安氏証言の人物と年齢が10歳程度合わず、山田さんの場合は身長が約20センチ異なる。